

# 今月の15首

佐佐木幸綱・選

詠み人の伝はらぬ歌読みみつ詠みて消えにし生のゆかしさ

白岩 裕子

亡き人も映し出されて披露宴に過去の時間が流れる暫し

今井 洋子

やわらかな羽ふくらませ雌雉は一步を前に一步を前に

越智 敦子

逃亡者ゆゑの心の充実に少し焦がれて見てゐる写真

高山 邦男

ポスターのジャッキー・チェンとにらみ合うDVDコーナー間合いを計り

佐佐木定綱

川風は湿りを運び揺れながら遅い日暮れを待つ鶴飼舟

細溝 洋子

生き生きと遠ざかり行く台風の映像の雲見ていたりける

梶尾 利徳

氷見線に乗らむと待てばドラエモン列車入り来て鮮やぐホーム

岡田恵美子

病院は折しも梨の花ざかり死者はひっそり裏口を出る

森本壽々子

鳥海山の雪嶺はるか望月の出羽一国を照らして高し

加賀谷 実

あたらしき名の顛れてまた消えて「心の花」を過ぎし人々

田中 薫

寂しさと切なさまだらに入り混じるガムテープには小指の指紋

新留紀代美

ガネーシャの富貴な鼻を想わせる大きなナンが目の前にあり

佐久間得幸

さらばじゃと右手を上げて亡くなった大工の父は今も身の内

岩島千河子

雨の日の余白のように日は射せど濡れているなり菖蒲田の道

中西由起子